

新生！戸倉魂



7月9日（日）、第1回戸倉地区家庭バレー大会が戸倉小学校体育館で開催されました。

震災前から行われていたバレー大会でしたが、震災により中止を余儀なくされてきました。しかし、地域やスポーツ推進委員の皆さん協力により、ようやく復活することができました。参加チームは全部で8チーム。チームの平均年齢は、下は18歳から上は51.5歳。老若男女が真剣に、そして、時には笑いありの中、元気にプレーしました。

折立Aチームの主将 須藤功さんは「震災前からこの大会をやっていて、いつやるのかとても楽しみにしていた。夢叶って、とても嬉しいです。後は、卓球やバドミントン大会が復活するのを楽しみにしています」と復活に対する思いを話してくれました。

待ちわびた海水浴場の再開

7月15日（土）、海水浴場「サンオーレそではま」が7年ぶりに再開し、家族連れなど多くのお客さんにぎわいました。

サンオーレそではまは、震災で砂が流失したほか、約1メートルの地盤沈下がありました。そのため、宮城県において昨年5月から約3万立方メートルの砂を入れるなどの工事を進め、今夏再開することができました。

海水浴場の水質検査は「適（A）」の判定で、放射性物質等検査においても海水、砂浜とも不検出。放射線量問題なしとの結果を受けています。安心安全で、きれいな海水浴場サンオーレそではまに、この夏出かけましょう。

開設期間は8月20日（日）まで。遊泳時間は午前9時30分から午後4時。



みずふうせん 水風戦って楽しい！



7月16日（日）、南三陸ふっこ青年会の主催で「水風戦in南三陸」がサンオーレそではまで開催されました。3回目の開催となる本大会には、町内外から10チーム、子どもから大人までの約80人が参加しました。

水風戦とは、簡単にいうと「水風船」をぶつけ合う新しいスポーツです。誰もが親しんだことがある水風船ですが、相手にぶつけた時の喜びや、ぶつけられ、水に濡れた時の爽快感に年齢差関係なく、みんな大はしゃぎの様子でした。

仙台市から参加した20代女性は、「初めて参加したが、迫力があって良かった。大人から子どもまで楽しめる大会で、また来年も参加したい」と話しました。

きれいに咲いてね



花を育てることで命の大切さや思いやりの心を育んでもらう「人権の花運動」が6月20日（火）、入谷小学校と入谷ひがし幼稚園で行われました。

この日は、人権擁護委員の皆さんと一緒に、子どもたちがお互いに協力して、サルビアやマリーゴールドなどの約200本の花をプランターに植え、小学校や幼稚園の玄関先などに並べました。

今後、子どもたちが水やりや草取りなどのお世話を通して、花を大切にする気持ち、愛おしいと思う心などを育てるとともに、花だけでなく、さまざまな生き物や周りの人への思いやりの気持ちも育めることでしょう。

百寿のお祝い 佐藤 いつよさん（歌峰畑）

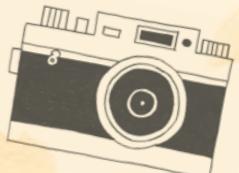
7月5日（水）、百寿を迎えた佐藤いつよさんに、町からお祝い金と花束が贈されました。

佐藤さんは、編み物が特技で、家族のベストやセーターなどを編んでプレゼントするのが楽しみだったと話します。長生きの秘訣を聞くと、料理を欠かさず作ってきたことだそうで、95歳くらいまで家族の夕食作りを担当しました。肉料理が好きで、特にトンカツが大好物だそうです。

いつまでもお元気で。百寿おめでとうございます。



みな
レポ



歌中防災クラブが世界大会へ出場

7月6日（木）、歌津中学校少年防災クラブがオーストリアで開催される第21回ヨーロッパ青少年消防オリンピックに出場することとなり、町長表敬訪問のため、役場を訪れました。

同クラブは、昨年、本町で開催された少年消防クラブ交流会（全国大会）で4位入賞したほか、「南三陸町安全・安心の日」である毎月11日を日安に備蓄品の点検や消防ポンプの使い方を学ぶなど、防災活動に積極的に取り組んできました。それらが評価され、今回の出場決定となりました。

出場するは、左から三浦海渡くん、山内智裕くん、三浦愛海さん、高橋千帆さん、千葉汐菜さんの5人。主将の三浦海渡くんは、「緊張と不安が入り混じるが、練習した成果を発揮できるよう一つひとつの競技に集中して取り組みたい」と意気込みを語りました。

南三陸から世界へ羽ばたく子どもたち。今後ますますの活躍が期待されます。

